

## Q 1 野沢北高校と野沢南高校の再編でどのような学校ができますか。

A 1 野沢北高校、野沢南高校、両校に通う生徒を合わせて1つの学校にする合併ではありません。

令和2年、長野県教育委員会「高校改革～夢に挑戦する学び～」再編・整備計画【一次】により、佐久市内県立全日制普通科高校3校を2校とする計画が発表となりました。

佐久新校（仮称）における学びのイメージは長野県教育委員会HPで発表されているとおり、『夢のある未来社会を地域と共創する「知」の探究校』を目指した進学校を創ります。

これまで通り、進路実現もクラブ活動も出来る文武両道の学校を目指しています。

現在の野沢北高校の校地に新校が建設されます。

## Q 2 令和11年度の入学生は佐久新校（仮称）の卒業生となるとして、9年度、10年度の入学生の扱いはどうなりますか。

A 2 全日制の統合方法は、年次統合となります。

令和9年度、令和10年度入学生は、それぞれが入学した高校で学習し、それぞれの高校での卒業生となります。次のようなイメージとなります。

	野沢北 校地	野沢南 校地
R10年度	1・2・3年生	1・2・3年生
R11年度	2・3年生	2・3年生
<b>新校 開校</b>	<b>新校 1年生</b>	<b>募集 停止</b>
R12年度	3年生(最後の卒業生)	3年生(最後の卒業生)
	<b>新校 1、2年生</b>	
R13年度	<b>新校 1・2・3年生 統合完成</b>	

定時制については、長野県教育委員会再編・整備計画【三次】により、野沢南高校定時制は、「佐久新校（仮称）定時制」に移管されます。正式な移管時期は今後発表されます。

## Q 3 佐久新校（仮称）の学びはどうなりますか。

A 3 文系理系にとらわれないリベラルアーツ的な学び、探究を核としたダイナミックな学び、大学・研究機関・企業・自治体等と協働した学びを実現しようと考えています。

また、生徒ひとり一人の「個別最適な学び」を実現させる一つの方法として、希望する進路・興味・関心に応じて科目選択の幅を広げる進学重視型単位制の導入を考えています。両校が誇るOB・OGと探究活動を支えていただくコンソーシアムなど現在の知的財産を引き継ぎ、新しい学びを創ります。

令和6年度、野沢北高校が文部科学省のDXハイスクール事業に採択され、3Dプリンタ・動作解析カメラ・ソフトウェア・映像遅延装置など、新しい機材が導入されました。現在、数理・データサイエンス・AI等を活用した学びや探究活動・課題研究活動ができるように機器の充実を計画しています。これらの機材を引き継いで、新たな学びを創造します。

これまで同様に探究的手法（疑問を大切にし、コミュニケーション能力・発信力を高め、未知なるものに挑戦する気概を持たせること）を大切に授業を行います。

#### Q 4 進学重視型単位制とはどのようなものですか。

A 4 新校には、全日制と定時制が置かれます。全日制では、設定している科目はすべて進学を意識して展開（進学型）します。1年次は必修科目を中心に学習します。2年次から選択の幅を広げて、各自に適した科目を選択し、学習します。3年次は単位制の利点を活かして、各自の希望進路に合わせて、選択できる科目が多くなります。どの様に選択していくか、丁寧なガイダンスを行います。

一般的な「単位制」とは違い、「進学に伴う科目を生徒に選びやすくする」ためのもので、導入により、選択する科目の幅が広がり、生徒の希望進路に合わせて科目選択することや興味・関心のある科目が選択できる環境が整います。生徒ひとり一人の「個別最適な学び」を実現する一つの方法と考えています。大学と連携した学びや発展的な授業、個人研究の設定等も可能と考えます。

県内では、須坂高校・長野高校・屋代高校・松本県ヶ丘高校・松本深志高校などが導入しています。

#### Q 5 現在の野沢北高校の理数科はどうなりますか。

A 5 佐久地域で高い評価を得ている野沢北高校の理数科を発展させた学科・コースの設置も含めて、佐久新校（仮称）での学科を検討しています。理数科・普通科をさらに発展させた学びを考えています。正式な学科名は今後検討されます。

#### Q 6 留学の扱いはどうなりますか。

A 6 留学はこれまでもありましたが、留年することなく行うことが可能です。

文部科学省の平成22年4月1日付22教高号外教育長通知による「高校生の海外留学の取り扱いについて」に従っています。

また、県のプロジェクトを利用した短期留学や学校独自の海外研修も考えています。

#### Q 7 どのような学力層の生徒を募集するのですか。

A 7 目指す学校像や学びを考えて、自分の希望する進路に合わせて進学できるように考えていますので、ある程度学力を持った生徒を想定しています。佐久地域の進学校を目指しています。

#### Q 8 佐久新校（仮称）のボーダーラインはどのくらいを想定していますか。

A 8 具体的に何点という言い方は出来ませんが、佐久新校（仮称）の目指す学校像や学びに照らして生徒を募集します。

#### Q 9 新校の定時制はどのような位置づけですか。

A 9 「高校改革～夢に挑戦する学び～」再編・整備計画【三次】により、野沢南高校定時制は、「佐久新校（仮称）定時制」に移管することになりました。

また、小諸商業定時制を「小諸新校（仮称）定時制」に移管した後、東御清翔高校夜間部の設置時期を考慮しながら佐久新校（仮称）定時制に集約することとなりました。

**Q10 最寄り駅からのアクセスはどうなりますか（中込駅から、佐久平駅から）**

A10 通学の利便性・安全性については、懇話会でも度々話題に上がっています。

特に、中込駅・佐久平駅からの通学利便性向上の要望が出されており、今後、両校、県教育委員会、自治体等の関係者が協力して検討していくことになります。

**Q11 校名はどうなりますか。校名の募集はどのように行われますか。**

A11 校名については、その募集方法も含めて、現在検討中です。

**Q12 どんな校舎になりますか。**

A12 野沢北高校の校地に新校が建設されます。

校舎については令和5年9月30日のプロポーザルによって、SALHAUS・ガド建築設計事務所共同体が設計者として最適候補者に選ばれ、現在、新校舎の整備計画策定のパートナーとして新校の学びを実現できるようNSD（長野県スクールデザイン）プロジェクトにより計画を進めています。

また、工期を分けて建設工事を行うことで、野沢北高校の生徒と佐久新校（仮称）の生徒が、段階的に移れるよう、設計計画が工夫されています。